

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2007年度の再編による学部、前期課程、後期課程の間の教育課程の連携を安定的に維持・発展を図る。	→学部科目と大学院前期・後期科目の共通基盤と専門基盤の評価。学部からの内部進学者の授業評価および成績状況	B	B			
2. 厳正な学位審査体制を強化する。	→博士論文の公開発表会の実施状況と外部審査員の登用(文学研究科内規別表3)状況。	B	B			
3. 教育課程に即した専門分野を明示し、大学院案内で公表し、大学院オリエンテーションで周知させる。	→大学院履修・学習要覧Webサイト(http://www.kwansei.ac.jp/youran)とオリエンテーションプログラム表	C	C			
4. 課程制博士課程における、入学から学位授与までの教育システム・プロセスの円滑化に向けた実質的な制度を設計する。	→入学から学位授与までのタイムテーブル(大学院履修・学習要覧Webサイト)を守っているか定期的指導の実施状況。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】
 ○「目標」3を除き、おおむね順調に推移していると判断されます。
 ○遅れている目標については、「改善すべき事項」にあてはまらないか、検討が望まれます。

【学内委員】
 ○いろいろな意味で課程博士を輩出することが求められています。したがって、この学位の授与の仕組みや過程を明らかにすることは重要です。その意味で、2009年度に設定した目標の4は焦眉の問題ではないでしょうか。
 ○きっちり整備されており評価できます。
 ○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、小項目5.0.1については方針の内容を記載してください。なお、認証評価の際には方針の内容を報告書で明らかにすることが求められています。
 ○小項目6.1.1は、教育目標ではなく、学位授与方針が明示されているかというものですから、現状は明示していないことになるのでしょうか。学位授与方針は、修了要件だけではありません。大学基準協会は「学位授与方針には、学位の授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示す必要がある」と解説しています。
 ○小項目6.1.1の説明は、「6.4成果」における内容も多いと思います。整理される必要があります。
 ○社会への公表は、ホームページを抜きにしては語れません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】
 ○小項目6.1.1
 基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」
 達成度評価：なし
 ○小項目6.1.2
 基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」
 達成度評価：なし
 ○小項目6.1.3
 基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」
 達成度評価：なし
 ○小項目6.1.4
 基盤評価：なし
 達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.1.1について以下のとおり修整・追加記述を行う。「大学院履修心得」、大学院履修・学習要覧Webサイトとオリエンテーション・プログラム表で周知を図っており、博士学位取得のプロセスについては、博士論文計画書→副指導教員選任→「博士論文作成演習」のほか必要科目（特別研究を含む）の履修→博士予備論文→博士論文提出と、明示されている。修士の学位授与方針については、2010年度はまだ公開しておらず、2011年度に向けて準備中である。